連載40 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

（医）東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義（63歳・内科）

生命の危機
医者嫌いのおばあさん
～介護医療系連合の特殊部隊出動～
（ダイバーシティスクラム）

ある日、行政関連の福祉担当責任者から至急の往診依頼がありました。患者さんは80歳ほどの女性で、生来医者嫌いで詳細は不明とのこと。

早速訪問してみたところ、家は部屋中ゴミだらけのゴミ屋敷になっており、患者さんはというと、尿便失禁もそのままの寝たきり状態でした。

とりあえず体の清拭をし、部屋の片付けをすることにしたのですが、患者さんに不整脈と心不全そして高度の貧血症状がみられ、生命の危険につながるおそれがあるため、至急、高度機能病院へ精査入院をするようすすめました。ところが「今日はどこにも行かない」と、本人の意志が強く説得には困難を極めました。いわゆる『接近困難事例』です。

次の日、なんとか介護施設に入所していただき、在宅医療にて血液検査とEKG（心電図計）と胸部レントゲン検査をしたところ、気管支肺炎と高度な貧血という検査結果で、在宅酸素（HOT）使用と輸血が急がれました。さらに悪性疾患の疑いもみられたため、速やかに高度機能病院へ外来受診していただき、輸血療法とCTスキャンを行ったところ、子宮がんも発見されたのです。

その後、下血も続いていたので、がん専門高度機能病院に精査治療入院していただくまでなんとかたどりつけたのでした。初診から約20日目のことでした。

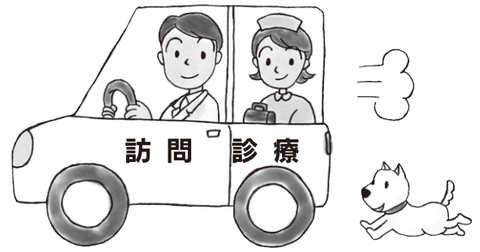
無事退院されましたら、患者さんの希望通り住み慣れた自宅での療養ができるよう、ご協力させていただくことを再確認する予定です。

今回のように、認知症問題行動がみられ判断力も低下している独居の高齢者は、他人との関わりを著しく拒否される場合があります。だからといって、放置するわけにはいきません。ですが、優しく思いやりのある関係者だけでは限界もあり、またあらぬ誤解を受ける場合もあります。

ですから、このような『接近困難事例』では、大変な努力が必要です。そして、行政や福祉関係者そして介護系・医療系スタッフが協力し相談しながら、積極的に速やかに歩むことが大切なのです。

いわゆる『ダイバーシティスクラム』が求められている時代なのでしょう。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い 在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



Hyper Blood Viscosity（高血液粘度群）を科学する
臨床生命科学（体質・病態学、栄養学）研究所開設
機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
（医）東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788
http://www.touzaikai.jp/